

研究所プロジェクトについて

水落 健治

研究所の主な活動は、プロジェクトの形で行われています。今年

度は、これまで5年間にわたって行われてきた「人権とキリスト教」のプロジェクトが終わり（研究成果は『人権とキリスト教』の書名で今年度中に出版の予定です）、外部からの研究員2人を迎えて、新たに3つのプロジェクトが始まりました。

「古代キリスト教とヘレニズム思潮」：古代キリスト教思想家の著作を当時のヘレニズム思潮（ヘレニズムユダヤ教、中期プラトン主義、ストア派など）との関連において哲学的・文献学的に考察し、日本におけるキリスト教・教父研究に積極的貢献を行おうとするものです。専門分野の研究として、高度に学問的な成果を生み出すことを目的としています（参加者：柴田有、水落健治、久山道彦）。

「ヒューマニズムとキリスト教」：西洋近世のルネッサンスから生まれたヒューマニズムは、同時期の宗教改革ときわめて微妙な関係を保っていました。本プロジェクトは、この「別個のもの」とも「同じもの」といえないふたつのものの関係を15、6世紀から考察して行き、両者の本質を明らかにしようとしています（参加者：澁谷浩、千葉茂美、吉田泰、川島堅二（研究員））。

「キリスト教主義教育研究」：本学の教育理念である「キリスト教主義教育」の内容、歴史、現代社会との関わり、カリキュラムとの関わりなどの問題を批判的に地

道に検討して行こうというプロジェクトです。研究領域としては未開拓の分野ですが、様々な仕方で本学の教育理念が問われている現在、豊かな成果をあげることが期待されています（参加者：中山弘正、加山久夫、畠山保男、飯島啓二、長村亮介（研究員））。

これら3つのプロジェクトに加えて、アメリカ Presbyterian Church (PCUSA) の援助のもとに、“Christianity in East Asia Study”の国際プロジェクトも継続して行われています（本学参加者：M. マリンズ、R. ヤング、澁谷浩、加山久夫、畠山保男、特別参加：朴憲郁）。

以上のように、研究所の活動も、基礎的なものから実践的なものに至るまでの幅と広がりを持つようになってきました。皆様のご支援をお願いいたします。

（みずおち けんじ

キリスト教研究所主任）